

令和7年三浦半島宮陵会/新年会開催

～会員など64人が参加～

令和7年神奈川大学三浦半島宮陵会の新年会が1月11日(土) 11時から、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「横須賀市立勤労福祉会館(ヴェルクよこすか)」に会員など64人が参加して開催された。

進行役の島田順子副会長(S47短商卒)の司会で始まった講演会には会員45人が参加し、田原会長(S49年貿易卒)の主催者挨拶に続き、神奈川大学教育・学生支援部国際職員の、サイモン・ジョン氏が「神奈川大学の国際交流・国際文化教育について～自身の経験に基づいた事例談～」と題し1時間20分にわたり講演された。(講演要旨は2～3頁目に掲載)

休憩を挟んで開催された懇親会は、ケータリング方式で行い、これには5人の女性会員、マンドリンアンサンブルのOB・学生12人を含む62人が参加(内4人が初参加)でした。

鈴木明子幹事(H6年中国語卒)の司会で、原柳作副会長(S46年英文卒)の主催者挨拶、初参加者や他地域宮陵会メンバー、懇親会で演奏して頂いたマンドリンアンサンブルのメンバーの紹介があり、今回92歳で参加した最年長会員の川瀬元夫氏(S31年経済卒)の乾杯の音頭で懇親会は始まった。

懇親会では、本会の会員でもある石渡卓神奈川大学理事長(S51年貿易卒)の挨拶、初参加者4人の自己紹介や



↑ 全参加者による記念撮影「ヴェルクよこすか」2025.1.11

ご挨拶

会長 田原 清彦



神奈川大学三浦半島宮陵会新年会にご参列いただきまして、誠に有難うございます。昭和49年(1974)

3月貿易学科卒、三浦半島宮陵会会長の田原清彦でございます。当会の会員のお一人でもある石渡卓理事長や、神奈川県ブロックの他地域組織からご列席を賜っておりまして、心よりお礼申し上げます。

今年は昭和という年代で数えますと、ちょうど昭和100年になります。子供のころ脱脂粉乳でできた牛乳まかいのものを給食で飲んでいたのが、つい先日の事のように思えます。こんな昔のことを思うようになったのは、年を取った証拠かなと思うこの頃です。折しも今年2025年は、5人に一人が75歳以上になる、という年でもあるようです。

さて母校、神奈川大学は2028年にいよいよ創設100周年を迎え、卒業生は24万人以上を超える総合大学として、隆々とした歴史を刻んでいます。当三浦半島宮陵会は神奈川大学卒業生の同窓組織・宮陵会の地域組織の一つであり、発足は2006年で来年20周年を迎えます。

本日の新年会では神奈川大学職員、サイモン・ジョンさんから“神奈川大学の国際化に関するご講演”をいただく予定となっております。三浦半島は日本の国際化において象徴的な地域であることから、ご講演は大変興味深いものになると思います。

今年の干支・蛇年にあやかり脱皮をしながら年々成長をしていく蛇のように、大学の成長や変化を感じ取れる機会となり、昭和、平成、令和の母校での思い出話などを含め、皆様が懇親を深めていただければ幸いです。

この一年が皆様にとって素晴らしいものとなりますよう、ご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

町田宮陵会の古家秀紀氏(S38年貿易卒)、神奈川区宮陵会の春原正三郎氏(S47年法律卒)・久米信行(S49年経

済卒)、港南区宮陵会の和咲暁裕氏(S63年貿易卒)、藤沢宮陵会の指濱博氏(S62年応化卒)の挨拶があった。

中盤では催し物として、粕川将孝氏(H7年英語英文卒)を指揮者とする12人編成の神奈川大学マンドリンアンサンブルの演奏を堪能し、2時間にわたった懇親会は、佐藤裕久幹事(S54年経済卒)の中締めの挨拶後、参加全員で校歌・応援歌の合唱をして閉宴となった。(塩塚)



↑ 進行役の嶋田順子副会長

↑ 挨拶をする田原会長

講演会開催

「神奈川大学の国際交流・国際文化教育について～自身の経験に基づいた事例談～」

神奈川大学教育・学生支援部

国際課職員 サイモン・ジョン氏



【講演要旨】

私は、オーストラリアの大学を卒業後、2004年に本学の歴史民俗資料学研究科に入学し、修士を修了しましたが、現在は論文博士を目指しています。2012年より本学の国際課の事務職員となり、2017年より歴史民俗資料学研究科の非常勤講師を兼任しています。

本日は当事者として、様々な観点から神奈川大学の国際交流と関わってきたので、自身の経験に基づいた事例談をお話します。

1. 学生として：本学に入学した頃は、留学生も少なく、交換留学生もおらず、研究科以外の留学生との交流はほぼありませんでした。受け入れ態勢も整っていませんでした。私が所属する研究科では、フランス人やコンゴ人をはじめ、比較的に多国籍で、学生身分で研究出張に

行けたり、教授の紹介により、中国の大学で語学研修ができましたが、現在のような多言語の語学研修体制はなかったため、自力で行くことしかできませんでした。

2. 事務職員として：現在外国籍の事務職員は私1人のみで、主な業務は、受け入れる交換留学生の英語でのサポートや派遣する交換留学生の留学前準備(異文化研修対応等)です。他に翻訳・通訳や本学の英語表記確認作業、協定校担当者の来訪時ガイド、協定校に訪問して環境の確認、国際交流年次大会に参加して現在の協定校の状況を確認したり、新しい協定校の開拓等、仕事は多様です。その他に国際交流公認団体と華道部の顧問をしています。

3. 講師として：「国際理解(英語)」という大学院の授業を担当しています。受講学生の割合は、留学生2対日本人1ですが、今後は、国際日本学部の学生が大学院に進学するようになるので、留学生と日本人の割合は、ほぼ同数になります。

4. 全体として：本学が国際化のために何をしてきたか？まずは、世界中に広がるネットワークの構築。国際センター発足時2011年4月時点の協定校数は35校でしたが、2025年1月現在は55カ国216校です。しかも年に1度、本学開催の協定校教職員交流プログラムにより、協定校同士の協定締結も進んでおり、充実した体制ができました。現在は協定校数を増やさず、現協定校との絆を強化することを優先しています。

交換留学生は2007年に初めて2人を受入れ、センター発足前の2010年度の8人に対し、2024年度は237人が来校しました。派遣する学生は2010年度に19人で、ピーク時の2019年度には89人となり、2024年度は72人でした。着実に増えましたが、ここ数年は減少傾向にあり、短期語学研修の参加者数には変動があまりないため、1ヵ月以内の「留学」に切り替わったようにみえます。

派遣留学の語学要件等のレベルが高過ぎ、要件に満たない学生が休学留学を選んでいる場合もあります。正規留学生数は近年500人弱前後ですが、今後維持できるかわかりません。国際化の推進は大学全体の努力によるもので、キャンパスの新設が大きいですが、その前後の学部・研究科・研究所の新設・再編成も大きいと思います。外国語学部のGEC等留学が含まれるコースも、国際教

育の強化に繋がります。2019年に地元学生と留学生が共同生活できる素晴らしい国際寮もできました。

しかし、今後、国際的な教育・研究交流を促進する為に解決しなければならない課題もあります。予算や管理の問題、英語で行う授業（世界基準）の数、日本語の予備教育、入試制度、空間教室のキャパシティの問題などです。

今の世界には、地球温暖化、貧困、差別、格差、疫病といったグローバルな問題が山積しています。異文化を学び、留学することにより、人類の未来を担う学生の皆さんに、異文化に対する理解を深め、異なる背景を持つ人々と信頼関係を結ぶことが、今だからこそ必要不可欠です。

そのため、ご支援を卒業生の皆様にお願ひできればと思います。大連やサンパウロなど海外の宮陵会の皆様も、現地で留学生の支援をしています。100周年に向け、国際交流行事も充実させ、本学の国際化に貢献していただけることを心からお願ひ申し上げます。講演するサイモン氏 ↓



懇親会開催

懇親会は、演奏してくれたマンドリンアンサンブルのOBや学生、5人の女性を含む62人が参加。内4人が初参加となるなど、盛会の新年会となった。以下、その模様を写真でご紹介します。



↑ 挨拶する石渡理事長

↑ 乾杯の音頭の川瀬氏



↑ 自己紹介をする初参加の全から濱田・亀井・林・関沢の各氏



挨拶する他地域組織の上
 上 ㊦古家・㊦春原
 中 ㊦久米・㊦指旗
 下 和知の各氏





懇談する参加者の皆様 ↑ ↓



懇談する参加者の皆様 ↑ ↑



懇談する参加者の皆様 ↑ ↓



懇談する参加者の皆様 ↑ ↓ マンドリンアンサンブルの演奏





『神奈川県大学マンドリンアンサンブル』の演奏 ↑ ↓



↑ 中締の佐藤裕久幹事



↑ 司会の鈴木明子幹事



↑ 校歌と応援歌を大合唱する参加者



↑ 懇親会を締めくくる校歌と応援歌の大合唱

12時50分から始まった懇親会は、2時間半ほどで終了となり、フレドール葉山の食パンを頂きお開きとなった。

三浦半島宮陵会同好会通信

～活動状況・予定等を紹介します～

● ゴルフ会世話人: 佐藤 武 (S46年経済卒)

メールアドレス: minami-sugar@nifty.com



連絡先: 090-3147-0105

2024年10月16日(水) 葉山国際カンツリー倶楽部で11名が参加して、第49回三浦半島宮陵会オープンコンペが開催されました。

三浦半島宮陵会のゴルフ同好会では、どなたでも参加できるオープンコンペを、5月と10月の年2回開催しています。今回は「秋のコンペ」となります。

優勝は中川六郎氏、準優勝は鈴木和夫氏、3位は萩原力氏が受賞しました。(世話人: 長島保男)



↑ 参加された皆様

宮陵会オープンコンペに18年参加し続けて初優勝!

中川 六郎 (S44 経済卒)



9月24日、曇り。葉山国際エメラルドコースで、第49回宮陵会オープンコンペが、長島さん (S54建築卒・吹奏楽部初金会) のお世話で行なわれた。

↑ ㊦中川 ㊧田原会長

1組に萩原、箕輪、佐久間、田原。2組に古敷谷、鈴木、初参加の深津、中川。3組に長島、松井、山口の各氏で全11人。参加者が2組から3組に増え、宮陵会のハンディキャップを修正して復活させた。

その結果、ハンディキャップ35の私中川が56。52で、'06年12月のエンゼルカントリーで行われた第1回コンペに参加して以来、初めて優勝。私は、今回、宮陵会ハンディが復活したので、上位を意識したが、4番ショートは4パットで5打、5番ロングはバンカーに掘まり10打。後半10番ショートは6打、ここで万事休す。その後、目標ハーフ54を目指して集中した。

古敷谷キャプテンの明るいゴルフに引っ張られて「ゆったり振り切る」を呟き通した。コンペを発足させ18年、参加し続けての初優勝を噛みしめた。

●歩こう会世話人:内藤正久 (S51 年機械卒)

メールアドレス: naitoumasahisa@hotmail.com



連絡先:090-6479-3297

歩こう会は、会員は勿論のこと、ご家族やお友達の方々にも参加していただける楽しい会です。

当会は、年2回(春・秋)歴史や話題性のあるテーマを決めて歩いたり、三浦半島の景勝地や自然を楽しんだりしています。同時に、会員の交流にも重点を置いて企画しています。

春の歩こう会は、'25年3月30日(日)「横須賀ウォーカーズガイド」で紹介された「追浜 鷹取山コース(京急神武寺駅~京急追浜駅 5.4Km)」を歩きます。(詳細は同封の別紙「ご案内」をご覧ください)

参加者には記念品を贈呈します。沢山の応募をお待ちしています。

●テニス会世話人:塩塚定雄 (S48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043

テニス会定例会は、現在原則として毎週木曜日午後3時から5時まで大津グランド・テニスコート(京急新大津下車)で行なっています。

ひと汗かいた後のアフター・テニスも良いのではないですか。初心者歓迎です。皆様の参加をお待ちしています。

●つり会世話人:塩塚定雄 (昭和48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先: 090-5581-1043

現在休止中です。

企画が出来ましたら、ご案内します。釣り付きの皆様、お声掛けください。

歩こう会「京急ミュージアム」「みなとみらいキャンパス」見学会 報告

昨年10月5日(土) 横浜みなとみらい地区にある「京急ミュージアム(電車の博物館)」と「第2回みなとみらいキャンパス」の見学会を実施した。参加者は3人(ご夫婦1組)で、天気はあいにくの雨模様だった。

参加者は、12時半にそごう横浜正面入口に集合。まず初めに徒歩8分のところにある京急ミュージアムを訪れた。このミュージアムは、京浜急行電鉄本社ビルの1階フロアを電車とバスの博物館にしている。土曜日ということもあり、家族連れて混んでいた。一通り見学した後、昭和初期から約50年間運行し、修復して展示している電車のシートに座り、昭和レトロで懐かしい雰囲気を感じながらゆっくり過ごした。

次に、10分間歩いて神大みなとみらいキャンパスを訪れた。14時に案内人の学生(国際日本学部2年生)と合流し、世田谷から訪れた卒業生と一緒に7階の学生食堂で

説明を聞き、見学会が始まった。まず初めに21階のレストラン～7・6階テラス～3・2階図書館～1階と見て回った。21階から富士山は望めなかったが、神大発祥の地を眺めることができた。また、2・3階の図書館は蔵書が多く、静かで綺麗なのに驚いた。2階には礼拝室が2カ所設けてあり、神大がダイバーシティを重視している姿勢を感じた。約50分間、案内人の端々に母校愛を感じさせる熱のこもった説明に一同好感を持った。最後に7階に戻りアンケートに記入して記念品（バックにもなるシートクッション）をもらい、1階に降りて解散した。

みなとみらいキャンパスの見学会は、現在大学で定期的に行っており、神大HPから直接申し込みます。是非一度見学してみてください。我々が通っていたころのキャンパスと全くイメージと環境が違うので、きっと驚かれると思います。（内藤）

箱根駅伝応援記

三浦半島宮陵会 顧問 古川 勝彦

第101回東京箱根間往復大学駅伝競走が'25年1月2日・3日に開催され、我が「三浦半島宮陵会有志」は今年もJR保土ヶ谷駅そばの「円福寺前（保土ヶ谷駅から横浜寄り150m）」で花の2区・9区の応援を行った。

両日とも晴天に恵まれ絶好の応援日和でした。今年は、中野剛新監督のもとでの初めてのレース。11時間7分28秒の総合16位（往路18位、復路17位）と振るわず、目標のシード権内に遠く及ばない結果となった。

青山学院大学は10時間41分19秒の大会新記録で2年連続8度目の優勝で、勢いを感じられたが、神大は総じて低迷、シード権どころでない。監督コーチの責任は重大



で、それに応える選手の備えも十分でなくてはならない。そのような取り組みが出来ることを期待したい。

現地での応援は、TVでは味わえない独特の雰囲気があり、一瞬で通り過ぎる選手の息遣いなども聞こえます。来年も予選会からの挑戦であるが、多くの関係者が沿道での応援に参加したくなるような走りを期待したい。来年の箱根駅伝も是非現地で応援したい。

三浦半島宮陵会・新年会に参加して

港南区宮陵会 会長

和知 親裕 (S63 貿易卒)



今回、初めて参加させていただきました。最初の講演会は、教育・学生支援部のサイモン・ジョン氏が大学の現状と国際化について話をしてくれました。

くれました。

神奈川県から一歩も出ない企業に三十余年勤めた私ですが、貿易学科OBの端くれ。世界に神大が認知され、学生が活躍することは大きな喜びです。今後さらに飛躍するように、宮陵会も学生の支援を強化しなければと強く感じた次第です。学生時代に受講したジョン・ボチャラリー先生が東大でご活躍と知り、驚きもしました。

懇親会では、諸先輩方と交流を深めることが出来ました。港南区でご活躍の先輩をご紹介いただいたり、私の部活の後輩と同じ職場の方とお話できたり、有意義な時間でした。石渡卓理事長も、他では見られないリラックスした表情でした。マンドリンアンサンブルへのカンパも多く集まったようで、さすがは三浦半島宮陵会！

来年もご招待いただけるかわかりませんが（笑）、また参加したい。そう実感した新年会でした。

新会員 関 沢 勝 也 (H3 建築卒)



運営等に携わる方々に、感謝申し上げます。今回初めて三浦半島宮陵会に参加し、充実した時間を体験させていただきました。

講演会では神大の現状を知り、懇親会では先輩の話を聴きつつ、層の厚さや居心地の良さを。また、マンドリンアンサンブルを聴きながら、学生時代を思い出し、人との繋がりを感じていました。

これは歳を重ねることによって、「神奈川大学」を再認識させていただいた感情なのかも知れません。このような有益な時間を持つ宮陵会を多くの人にとって頂きたいと思いました。

現在、私の職場である鎌倉市役所には、神大会（神大出身者24人）が結成されており、60年以上続いています。今後、三浦半島宮陵会の存在を、当会へ発信していきたいと思えます。

繋がりは駅伝だけではなく、宮陵会にも確実に存在しています。今後も末永い会の発展を願っています。ありがとうございました。

〈本会のホームページについて〉

アドレス：kyuryou-soshiki.kanagawa-u.ac.jp/miurahanto/



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPがリニューアルされました。「神奈川大学三浦半島宮陵会」で検索し、ご自分のPCや携帯にダウンロードして、いつでも検索できるようにしてください。

メニューとしては、ホーム、宮陵会とは、ご報告、会則・役員、だより、催しなど、入会・お問い合わせとなっています。当会報「神奈川大学三浦半島宮陵会だより」は創刊号から前回の35号までが、閲覧することができますので、ご覧ください。催しなどの予定や結果についても確認してくださいね。

なお、SNS系の鈴木明子幹事さんの方では、TwitterやLINEを使って、会員や同級生の方々とのやり取り等、情報共有に役立てられるようにして頂いています。Twitterはアカウントができれば「神大OB会@三浦半島」をフォローしてください。アカウントは「@kyuryo_miura」です。ご不明の点はメールで natukodati@gmail.com 迄。

2025年度 三浦半島宮陵会
「集い・懇親会」の開催予告！

'25年度「集い（総会・講演会・懇親会）」を7月6日（日）にヴェルクよこすかで開催いたします。楽しい催しも企画して皆様のご参加をお待ちしております。是非スケジュール表にお加えください。

ご案内の往復ハガキは、6月上旬に郵送いたします。たくさんの参加をお待ちしております。〈事務局より〉

～ 編集後記 ～

本号では先日開催された、新年会の模様などを紹介させていただきました。本誌はお陰様で本号で36号となりました。今後も誌面の充実にも努めてまいりますので、ご要望やご感想等お寄せください。

来年の'26年に本会発足20周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として「記念誌」の発行を予定しています。皆様の投稿を期待しています。その際にはよろしく願います。

水仙の花を見かける季節となりました。別名を雪中花と言い、“雪の中でも春の訪れを告げる”ことから付けられたそうですが、幸い横須賀は穏やかな日が続いています。

横須賀の野比海岸から北下浦海岸の遊歩道には、水仙の花が可憐に咲き誇っている「水仙ロード」と呼ばれるところがあるのをご存じですか。

私が高校時代にクラブのトレーニングで、ジョギングをしていた頃には整備されていませんでした。10年ほど前に地元のボランティアの方々から200万株の水仙を植えたり、牧水夫妻の歌碑を立てたりしたようです。海岸沿いを久里浜方面に歩いてみては如何ですか。潮風に乗って、水仙の香りが漂ってくるようですよ。（塩塚定雄）



↑ 横須賀市/北下浦海岸から東京湾の眺め